

ふるさと講座・歴史系第4回目のお知らせ！

「擦文・アイヌ時代～オンネニクルの森を歩こう・野付 1.2 遺跡」

野付半島の自然、森に残された古代竪穴住居跡・チャシ跡を探索しようと思います。



- 日 時 平成27年10月18日(日)
午前10時～午後2時
- 場 所 野付半島
(集合：野付半島ネイチャーセンター2階)
- ガイド 野付半島ネイチャーセンター・郷土資料館職員
- 定 員 20名・10月16日(金)までに下記の方法で申し込み下さい(先着順)
- 申込方法 電話・FAX・メールのいずれかにてお名前・電話番号をお知らせください。
- その他 気候が変化しやすい時期なので、防寒着、長靴を着用ください。
昼食は現地で取りますので、お弁当、飲物を持参ください。

別海小学校3-4年生が来館されました(昔体験)

9月16日(木)別海小学校3.4年生(10名)が、「昔の暮らし、昔の道具を調べる」学習の一環で、来館され、館内に展示している昔の道具を調べたり、実際に道具を使う体験をしました。

体験した道具は、「炭火アイロン」「せんべい焼き」です。便利な生活をしている中で昔の道具を使うと、その取扱いも不便さを感じますが、昔の生活の中では、常に密着し関連性のあるもので、知恵と工夫が隠されていることがわかったようです。



野付半島の地層のはぎ取りを行いました。

本町の東に位置にする野付半島は、日本最大の砂嘴として有名ですが、その形成はいくつかの説があり謎にまつまれています。野付半島ネイチャーセンターの近くに現在防災タワーが建設され地面が掘削されていることから、地層が良く見え半島を形成している土層の堆積を観察することが出来ます。この度許可を取り、地層のはぎ取りを行いました。今後は専門家に見ていただき、展示資料として活用する予定です。



床丹 1 チャシ跡の発掘調査 その4

詳細分布調査の実施！-その1-

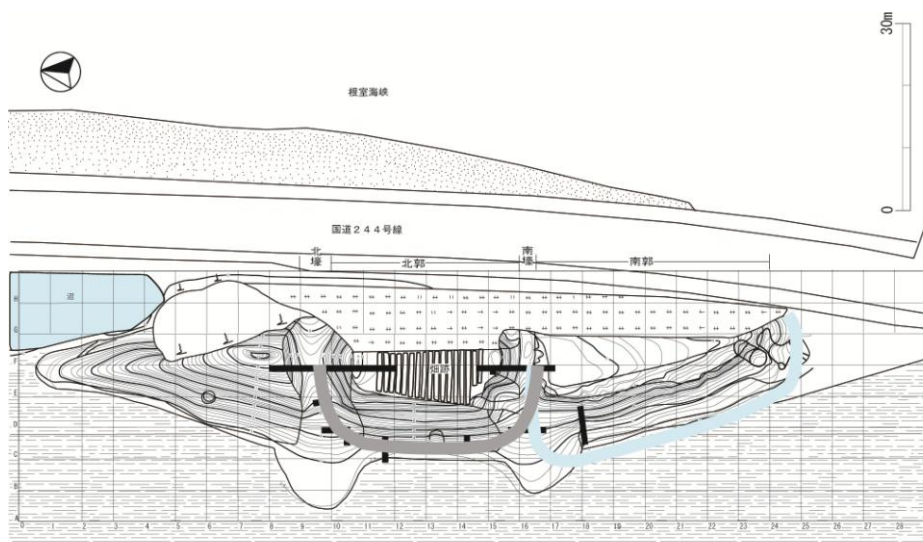
平成24年の試掘調査により、本チャシ跡は、これまで円形壕1条に囲まれた単郭のチャシ跡と考えられてきましたが、8字状の壕に囲まれた複郭のチャシ跡である可能性が高まりました。その痕跡が確認されたのは、今回再び調査を行った南壕に設置したトレンチ3でした。これを受けて、詳細分布調査は、8カ所のトレンチ（幅1m×任意の長さ）を設定し、壕の形成時期やその広がりや繋がりを確認する目的で調査を行いました。

調査の結果、北郭、南郭を取り囲む壕が各トレンチで発見され8字状であったことがわかりました。丘陵部分の壕の形成の過程は、丘陵を大きく掘り込んだ後に、中央部分に壕を作ったと思われます。壕の上部は、埋没の過程や後世に何らかの手が加えられていることから、不明瞭でしたが、壕底面の形状はU字状で底は平坦で楕円形壕となるようです。

構築使用年代については、樽前a火山灰(1739年降下)、駒ヶ岳c2火山灰(ko-c2 1694年降下)の下部の層から掘り込まれていることから、17世紀後半以前のもので、さらに科学的分析の結果、15世紀初頭から中頃の年代が得られ、検出された層位と矛盾しないものとなっています。



壕の発掘状況



壕の発掘状況図

別海町郷土資料館だより No.195

発行日 平成27年10月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

あっという間に10月に入りました。9月は天候も良く気温が高かった日もありましたが、やはり秋といった感じです。鳥たちもシギ・チドリ、そしてヒシクイが渡ってきて季節の変わり目を感じます。(K.I)